

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250		
法人名	株式会社 ファミリーズ		
事業所名	パラディーソ神宮寺		
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3		
自己評価作成日	平成26年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JizyosyoCd=3370105250-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成26年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりが自分らしく、毎日を笑顔で過ごすことができるよう寄り添う支援を大切にしています。
また、家庭的な雰囲気の中で安心した生活・その人らしい生活を送って頂けるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地に立地し、2階建ての2ユニットの事業所である。事業所内は天井や梁など木を活用し、照明や扉、畳スペースなど自宅に在るような雰囲気となっている。個室も扉のデザインやレイアウトが違い、本人が自分の部屋だという愛着が持てるよう工夫されている。職員は利用者の個性や思いを大切に、利用者が感情をそのまま表現し、その人らしい生活を過ごせるよう心がけている。また、家族にも役割を持ってもらったり、家族との食事会を行ったりするなど、本人と家族の関係を基本と考え、関係が途切れない支援を行っている。災害対策として備蓄品リストや利用者一覧表、マニュアル等を整理した防災計画を作成している。また、昨年度は利用者が移動しやすくペランダにスロープを設置し、より安全な避難経路確保に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の理念を目にする場所に掲げ、職員全体で共有している。職員会議や日々の話し合いを通して施設全体でケアの統一を図っている。	事務所に掲示し、月1回の職員会議等で確認している。理念に基づいた支援という方向性を職員全員が意識し、日常の中で利用者に合わせて支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物で外出する事で挨拶を交わし談笑している。また、夏祭りを開催し地域の方々を招いて交流を図っている。	町内会に入会しており、秋祭りのお神輿が来てくれたり、餅つきなどのイベントに参加したりしている。散歩や買い物の際、職員から挨拶を行い、顔を覚えてもらっている。公園でゲートボール見学をし、仲間に入れてもらったこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や実習生の受け入れをしており、認知症の人の理解や支援方法を知ってもらう機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や地域の方、利用者家族に参加して頂き、意見交換をすることでサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回を目標に開催している。地域の方や家族の参加を大切にしているため、土日の開催となり、行政の参加が難しい。地域の情報や事業所への意見など、意見交換の場となっている。	行政の参加が困難なため、議事録などの提出により、会議内容や運営状況、地域との関わり等、事業所が実践していることを報告してはいかがでしょうか。検討を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岡山市主催の研修会に参加している。協力関係を深めていけるよう、努力していきたい。	不明なことがあれば随時電話をし、確認をしている。地域包括支援センターとは同法人の居宅介護支援事業所のケアマネを通じて連携を図っており、直接のやり取りについてはこれからの課題である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の生活の中で、利用者の気持ちに寄り添い、制限された生活ではなく、その人らしい生活を送って頂けるよう努めている。	玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアを実践している。利用者が玄関を開けようとして開かなかったときの不安感に配慮し、心も体も自由な空間作りを行っている。家族にもその旨説明し、理解を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議を通して、虐待について学び、話し合う機会を作っている。日々の声かけなど、業務の中でも職員同士で指摘し合う事で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、内部研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族との面談の時間を十分に設け、不安な点や要望も聞き希望に沿った支援を出来るよう話し合っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別に面談を行っている。 面会時に日々の様子を伝え情報交換する中で、意見や要望など家族の想いを受け止め職員間で共有し日々のケアに努めている。	3ヵ月毎に個別面談を行い、利用者の現在の状況を説明すると共に、家族の思いや意向を確認している。遠方の家族の場合は電話で対応している。年1回、家族を招待しお食事を開催し、家族同士の交流機会にもなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で意見を出し合い、必要に応じて職員会議で話し合っている。また、個別に面談を行い意見や提案を大切にしている。	ホーム長や管理者が中心となり、職員の気持ちや意見を聞き、やる気ができるよう話し合いをしている。年2回、施設長が個人面談を実施し、最近の状況や今後の希望など聞き取り、できる限り反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い職員一人ひとりの想いを受け止めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加することで一人ひとりの向上を図り、その情報を内部研修で報告し合い意見の交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通して同業者と交流・意見交換を行い、その情報を職員間で共有し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のペースを大切にし、日々の会話の中からも本人の想いに気づけるよう傾聴し受容することで安心した生活を送って頂けるような関係作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など家族と話す時間を大切に、家族の想いを聞き受け止めるよう努めている。日常の細かな様子を報告することで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いろいろな選択肢を設け、本人と家族の想いに寄りながらしっかりと話し合うことで、希望に沿った支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの持っている力を最大限発揮してもらえよう支援している。共に生活をする中で職員が教えて頂くことも沢山あり、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は利用者にとって一番の理解者であり家族の役割を果たせるよう一緒に協力し、本人を支えていける関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話などを通して友人との時間を大切にもらい、関係性が継続するよう努めている。また家族から話を伺い、ドライブ時に本人の馴染みの場所に向くなどの支援を行っている。	自宅付近をドライブしたり、家族の了承を得て孫に会いに自宅に行ったりすることもある。美容院や家族の協力もあり、馴染みの美容院に通い、毛染めやパーマをかけ、おしゃれをしている方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を理解し関わり合いが持てるよう、声かけや環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて、家族の相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話の中から本人の想いや考えを知り、希望や意見の把握に努めている。	日常の中で本人が発した言葉を大切に支援に繋げている。「自宅に帰って片付けをしたい」という言葉から家族に連絡し、職員同行により自宅へ戻って片付けを行ったこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の本人との会話や、家族・他機関からの情報提供を元に、これまでの生活歴や環境把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや残存能力などを把握し、小さな変化にも気づくことができるよう、日々の申し送りなどで職員全体が情報の統一をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制を取り入れ毎月現状表に日々の変化や様子を記入し、大切な事は色分けをして分かりやすくしている。 本人や家族としっかり話し合い、思いや希望をケアプランへと繋げている。	計画作成担当者が中心となり、職員会議で意見交換し、3か月毎にケアプランを作成している。また、カンファレンスには出来るだけ家族も参加してもらい、意見を取り入れている。本人にとって一番必要なものは何かを考え、プランに取り入れるように心掛けている。	現状表作成において職員それぞれの視点により記載内容が異なっています。項目毎のポイントや視点を統一することにより、客観的なモニタリング資料としての活用を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や変化・気づき等を個別記録に記入し、大切な事は色分けをして分かりやすくしている。 記録と申し送りを通して職員間で情報を共有しながらケアに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況把握に努め、その時に必要なサービスを柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の今までの生活歴を大切に、その人らしく暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、馴染みのあるかかりつけ医の継続を行っている。異常時には連絡し、情報を共有しながら連携を図っている。	利用前からのかかりつけ医に継続して受診している方が多い。近隣の病院が多い為、受診支援も行っている。協力的な医師が多く、ちょっとしたことでも電話などで相談できる関係ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の小さな変化でも、申し送りで情報を共有し、往診時に報告している。異常時には看護職に相談し、必要があれば主治医へ連絡し指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へのお見舞いなどを通して、医療関係者と本院の状態について情報交換を行い早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の早い段階から看取りについて家族や本院に説明し、意志の確認をしている。また職員間でも本人や家族の想いを尊重したケアについて話し合いをしている。	家族との個別面談の中で説明をし、意思を確認している。できるだけ本人や家族の希望に添った支援を行い、悔いが残らないようにしていきたいと考えている。亡くなったときには利用者も一人ずつ挨拶をしてみんなで玄関から見送るようにしている。	看取り支援の経験も多いため、ステップアップに繋げるため、看取り後に振り返りのカンファレンスを行い、良かった点や反省点など話し合いの場を設けてはどうか。家族の参加も視野に入れ、検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、職員会議で学ぶ機会を設けている。ヒヤリハットを活用し事故防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の役割分担を作成し、いつでも確認できるようにしている。 防火設備を完備している。	防災計画を作成し、災害時の対応や利用者一覧表、備蓄品リストなど整理している。年3回の避難訓練を行い、反省会を開いている。避難経路にスロープを整備するなど、防災意識が高い。	緊急時には地域の方の協力も必要になるため、避難訓練への参加や避難場所提供の説明など、関心を持ってもらえるように働きかけをお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを尊重し、本人の立場に寄り添った言葉かけや対応をしている。	新人職員には外部の接遇研修に参加してもらい、職員会議でフィードバックをすることで職員全員に意識づけを図っている。トイレの声かけなど恥ずかしさに配慮し、耳元で話しかけたり、ご用事など本人に分かるよう言葉を変えたりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく本人何気ない表情や仕草からも思いをくみ取り、自己決定できるようコミュニケーションを図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを大切にし、個々に合わせた支援を心掛けている。 本人から希望があれば散歩などに出かけ、思い思いの時間を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などは自己決定してもらえるよう支援したり、化粧を楽しんだり、その人らしさを大切にしている。 また、時期をみて家族の方に散髪をすすめ美容院に行ったり、訪問散髪を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に3回一緒に食事作りを行い、調理を楽しんでいる。季節や行事に合わせたメニューを作り、美味しく楽しく食事ができるよう支援している。	朝食は毎日、昼夕食は週3回手作りの食事を提供している。そうめん流しや焼き芋、鍋パーティーなど季節に合わせて行事食を楽しんでいる。おせち料理も毎年一緒に作っており、利用者から教わることも多いとのこと。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、個々の記録に残しバランス良く摂取できるよう支援している。 また家族と相談し食べやすい形態にして提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた声掛けや口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。 必要に応じて歯科の往診も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は尿意・便意がなくパットに出ている時でもトイレの誘導を基本とし自立に向けた支援を行っている。	本人の様子を見ながら尿意・便意のサインを見逃さないようにトイレ誘導している。できるだけトイレで失敗なく排泄できるよう支援している。パット類は家族購入のため、最近の様子や尿量など説明し、本人に合ったものを購入できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、主治医に報告・相談した上で指示の下、下剤の調節をしている。また、牛乳やヨーグルトなどの提供細やかな水分補給も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の気分や体調に合わせていつでも入浴できるようにしている。 利用者の状態に合わせて二人介助で対応するなど安全面に配慮している。	週3回を基本に入浴支援を行っている。本人の気持ちを聞き、無理じいはせず、柔軟に対応している。夜間浴も希望があれば対応している。1階と2階の風呂場のしつらえが違うため、入りやすいほうで入浴ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や昼間の活動状況に応じて、休息の声掛けをし無理なく過ごせるよう支援している。 なるべく日中に活動を促し、夜は自然な入眠ができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを活用し、職員がいつでも確認できるようにしている。 服薬の確認から記録まで細かく管理し、薬の変更がある場合は詳細な記録をとり状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が毎日笑顔で過ごせるよう楽しみや役割を大切にしている。 また利用者同士の関わり合いを大切に、お互いが助け合いながら日々の生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・外出など家族の協力を得ながらできる限り希望に添えるよう支援に努めている。 行事など計画し、家族の方にも呼びかけ協力して頂いている。	天気の良い日には散歩や買い物などに出かけている。また月に一度は行事としてお花見や食事会、ピクニックなどみんなで出かける機会を積極的に作っている。お墓参りなど要望があれば家族の協力を得ながら、送迎など支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については家族と相談しながら、本院が所持または管理しており、安全かつ希望時には使用できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方も居られ自由に家族と連絡できる。 手紙・郵便などは本人と郵便局に出したに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダでは、季節の花や食べ物を植え収穫し、楽しんでいる。 ホールや玄関には季節の壁面を作成し、明るく楽しい空間で過ごせるよう工夫している。	内装は木の質感を生かしたぬくもりのある造りになっている。玄関には利用者が作ったレース編みやデジタルフォト、季節の壁画が飾られている。冬には畳スペースにコタツも用意される。利用者がゆったりと過ごせるよう、職員の動きや声の大きさにも配慮している	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースにはソファがあり、気の合う方と過ごしたり、階段前には椅子を設置し一人で過ごしたりと思いつくようなスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔からの使い慣れた家具や家族の写真を置き、自分の部屋作りをしている。 本人や家族と相談し必要があれば家具の配置替えを行い、快適に過ごせるよう支援している。	扉のデザインや造りがそれぞれ違い、自分の部屋という愛着を感じてもらえるよう工夫している。室内を安全に移動できるよう、家具の配置も検討している。年末は居室の大掃除を利用者と担当職員が一緒に行い、居心地の良い部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握しながら、安心かつ快適に過ごせるよう物の配置・導線に配慮している。 また、部屋には目印をつけている。		